

令和6年度第2回（第12期第4回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

開催日時：令和6年9月3日（火）14時00分～15時30分

開催場所：ときわ会館 小ホール

出席者名：【委員】若原 幸範議長、石川 敬史副議長、今川 夏如委員、  
加藤 美幸委員、佐野 操委員、澁谷 知範委員、  
関根 広美委員、藤田 成司委員、

【認定NPO法人みんなの夢の音楽隊】

今川 夏如様（第12期社会教育委員）、井上 綾様

【事務局】（生涯学習部） 佐野 公子

（生学習振興課）辰市 健太郎、玉城 伸、石田 悦子、  
三村 悟、伊藤 智美、駒井 友里香

（資料サービス課）中島 孝一

欠席者名：石崎 敬吾委員、井上 久雄委員、小林 玲子委員、鶴ヶ谷 柊子委員、  
林 弘樹委員、吉川 洋一委員、吉沢 浩之委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

## 1 開 会

## 2 挨拶

## 3 議 事

### (1) 前回会議について

令和6年度第1回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

### (2) 第12期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

#### ア 事業説明

資料2に基づき、認定NPO法人みんなの夢の音楽隊様より、夢桜さいたま祭り・まちフェス桜の事業概要の説明を行った。

#### 【質疑応答・意見】

<若原議長>

活動している大人が自然と繋がっていくということが印象的だったが、何か働きかけを行っているのか。

<認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

活動している人々が繋がっていくことを意識している。意図的になにか働きかけをしていることはないが、その場限りの関わりで終わらせず、繋がりを大切にしたいというような雰囲気が作られている。

<加藤委員>

しびらき祭りと一緒にすることになったきっかけ、まちフェスとしびらき祭りに参加している市民団体はかぶっているのか、今後、様々な障害者施設と事業を行う計画はあるのかという3点について伺いたい。

<NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

第1回目の夢桜さいたまつりとまちフェス桜の開催日としびらき祭りと重なったことが一緒に行うきっかけとなった。多くの市民団体がまちフェスにもしびらき祭りにも参加しているが、あえて参加を募集したり、積極的に関わろうとしたりしているわけではないので、障害者施設との関わりについては特に予定はない。

<澁谷委員>

事前に目的や目標、構成員等を明確に定めてから活動する組織ではなく、活動の展開に応じて多様な繋がりを構築していくネットワークのような組織であると認識したが、あっているか。また、協議課題の一つに働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくりがあるが、夢桜さいたまつりやまちフェス桜の活動では生涯学習をどのように捉えることができるのか、特に働く世代という部分と結びつくことがあれば教えていただきたい。

<NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

組織自体のイメージは澁谷委員のご認識のとおりである。夢桜さいたまつりやまちフェス桜は働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくりを目的にはしていない。目的を定めて、目的のために事業に携わるのではなく、それぞれが経験を活かして自分自身のままで関わることを求めており、その結果として参加者が偶然に新たな気づきや発見等を得ることがあり、働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけに繋がると考えている。そのため、何かを指導するというのではなく、横の対等な繋がりを重要視して組織を作っている。

<佐野委員>

事業の概要等を聞いて、ウェルビーイングを感じた。この地域で子育てができてよかった、この地域に生まれてよかったと感じることに繋がると思う。

<関根委員>

これらの事業はもう少し早く始められたのではないか。

<認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

事業を始めたいという声があがってから、準備の期間が必要だった。準備を進めていくうえで参加する団体や開催する場所等が増え、必要な準備ややりたいことも増えたので、ある程度の準備期間が必要だった。ただ、準備期間が長すぎると疲れてしまうということもあるので、長くかかりすぎないように配慮した。

イ グループワーク

<A グループ（発表者：澁谷委員）>

第一に、目的を事前に明確に定めていないとしつつも、子どもたちのために地域に繋がりを持ったり、何かを学んだりしてほしいという思いを共有すること。第二に、参加者の偶然の繋がりを生み出すような仕掛け作りを行うこと。第三に、各人が持つ知見や経験、地域の資源・資産を活動にできる仕組みを作ること、が必要であるとの意見が出た。

また、ウェルビーイングが重要なキーワードとして挙がり、楽しさや偶然から得られるワクワク感が働く世代の生涯学習を進めるうえでとても重要と考えた。さらに、子どもも準備段階からこのような活動に参加するという事は、将来大人になった時に次の世代に地域を通じて働きかけを行うきっかけとなる可能性があると感じ、大きな意義があるという意見も出た。

<B グループ（発表者：加藤委員）>

子どもや地域のためというように、住んでいる人々が共通の目標にしやすいものを取り上げているのが良いと感じた。PTA 等の既存の団体の存在や、課題を解決しなければならぬということがきっかけになることがある。また、知人に誘われたり、紹介されたりして活動に参加することが生涯学習の取組や原動力になることもある。経験や得意なことを活かして自分らしく活動できることや、緩やかな組織の繋がりの中で無理せず活動できることが良さであると感じた。

また、地域課題や働く世代、子どもたちとの繋がりを作ることも重要であるという意見が出た。

さらに、報告書も素晴らしいという意見も出た。記録や振り返りになるだけでなく、PR の材料や次の事業への道しるべとなり、事業のさらなる発展に繋がるものになっていると感じた。

## ウ 本日のまとめ

<石川副議長>

まず、報告書が事業の記録や振り返りであるとともに、事業に携わった方の思いがまちの記録となり、地域の次の世代に継承されていくもので素晴らしいと感じた。

また、働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけの前提が何かと考えたときに自分らしさということが重要で、緩やかで自然な繋がりが自分らしさを支えていると感じた。

さらに、決まった枠組みやネットワークに縛られることなく、自然の流れのように緩やかな営みや育みが事業の中で行われており、きっかけづくりの仕組みを作る手がかりになると考えた。

<若原議長>

目的や目標の設定の仕方が特徴的で、明確に目的や目標を定めるのではなく緩やかな目標や思いを共有することを大事にしていると感じた。また、働く世代のきっかけづくりで考えると、自分のためだけでなく、子どもや地域のためという目標を設定することで非常に豊かな活動や学習が生じると感じた。働く世代の生涯学習という新しく何かを見つけるということに目標を設定するよりも、持っている知識や能力を生かすということスタート地点とするのも重要であると思う。

また、繋がりを作るということでは、楽しさやワクワク感が活動の意欲となり、繋がりを広げることにもなるので、楽しさを生涯学習にどのように組み込んでいくかを考えていきたい。

最後に生涯学習の面で考えると、目的を表に出していくのではなく、生涯学習に繋がる場や環境を作っていくことが重要であると感じた。

## 4 連絡

令和6年度の学びのネットワークと生涯学習フェスティバルに関する情報を共有した。

## 5 閉会

# まとめシート(Aグループ)

偶然の  
つながりをうむ  
仕かけづくり

場づくり

同じ(共通)  
の目的をもつ  
子どものため  
に

できる人が  
できることを  
やる

まきこむ  
いろいろな人を

情報を共有・  
広める手段  
LINE等

ウェル  
ビーイング

おもしろさ  
ワクワク感

これまでの経  
験から今持っ  
ている知識を  
実践で活かす  
こと

すでに持って  
いるモノを生  
かせる場づく  
り  
(学習成果の  
活用)

活動する中で  
得るものがある

・つながりづ  
くり  
・意図せず活  
動から得られ  
る学び

子どもが大人  
になったとき  
地域につな  
がりをもつき  
っかけとなる

リソース探し

「楽しさ」が  
人をつなぐ

# まとめシート(Bグループ)

